

第3回御堂筋完成80周年記念事業推進委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年3月30日（金）15:30～17:00
2. 場所：大阪市役所屋上階P1会議室
3. 出席者：別紙「第3回御堂筋完成80周年記念事業推進委員会 座席表」のとおり
4. 議事要旨
 - (1) 開会（事務局）
 - (2) 委員長挨拶（吉村大阪市長）
 - ・別紙1
 - (3) 出席者紹介（事務局：別紙「座席表」）
 - (4) 報告案件
 - ・御堂筋完成80周年記念事業の取組み
 - ・平成29年度決算見込みについて
 - ・平成30年度予算（案）について
 - (5) 第1号議案 御堂筋完成80周年記念事業推進委員会の解散時期について
 - ・別紙2（意見交換参照）
 - (6) 第2号議案 御堂筋将来ビジョン（案）
 - ・別紙2（意見交換参照）
5. 意見交換（概要）
 - ・別紙2
6. 閉会

委員長あいさつ

本日は年度末の最終日という非常にお忙しい中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。第3回御堂筋完成80周年記念事業推進委員会を開催するに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

平成28年にこの委員会を立ち上げて以降、御堂筋完成80周年記念事業を皆さんと一緒に実施してまいりました。この間、さまざまな取り組みを通じて、市民の皆さんに御堂筋完成80周年記念事業をお祝いしていただき、そして御堂筋のあるべき将来像も含め、さまざまなメッセージをいただけてきたところです。

本日の委員会におきましては、御堂筋完成80周年記念事業として取り組んできました事業の報告と、記念事業を通じていただいた多数の意見をもとに、実行委員会で議論してとりまとめました御堂筋将来ビジョンを、事務局から説明させていただきたいと思います。

私自身、この御堂筋の記念事業を通じまして、やはり御堂筋は大阪のメインストリートであり、世界に発信できる非常に価値のある都心のメインストリートだということを確信しました。

世界のどの都市においても、成長する都市、国際競争力のある都市、世界から認められる都市というのは、それぞれメインストリートの顔を持っています。これが大阪においては、御堂筋だと思っています。その御堂筋を将来どうしていくのか、というのをぜひ皆さんと方向性をつけていきたいと思っています。

御堂筋は關一市長のものすごい大英断のもとでつくられ、非常に素晴らしいものになっていると思っています。この御堂筋の44メートルという道幅とイチョウ並木という素晴らしいもの、そしてこれまで御堂筋が築いてきたものを大切にしながらも、これから新しい第一歩として、この御堂筋を車中心から人中心、まさに人が集える空間にしていきたいと思っています。今の御堂筋のスケールであったり、あるいは魅力であったり、イチョウ並木、そういったものを維持しながら、車中心から人中心に変えていくべきだと思っています。これは何も突拍子もないことを言っているわけではなくて、世界中の成長する都市というのは、そのような方向に進んでいると思います。例えば、ニューヨークのブロードウェイでも、車中心の機能を人が集うにぎわいの空間に変えています。

先日、メルボルンの視察団が、大阪市に姉妹都市ということで来ていただきました。メルボルンのメインストリートであるスワンストンストリートでは、それまで車が走っていたストリートの人中心のストリートに変えることで、もちろん当時は賛否両論ありました

が、今となってはそうしたことにより、都市格が非常に高まり、市民の皆さんにも受け入れられているということで、非常に高い評価を得ているというような話もありました。

まさに今、大阪は来年にG20を迎え、そして万博も2025年に誘致しようという世界に張り合えるような国際都市をめざしていく中で、御堂筋においてもその方向性をつけていきたいと思っています。

まずはファーストステップとして、御堂筋の側道部分を人が集える空間にする。これは、2025年までにやりたいと思っています。大阪万博を誘致して、大阪万博のときに世界から多くの方がくる、国内外から多くの方が大阪にくる、そんなときに御堂筋の側道が人が集える空間に変わっている、そういったところまで持っていきたいと思っています。

それから、その先には御堂筋完成100周年を迎えることになりましたが、そういった時期には完全に車ではなく人が集える空間、いわゆる完全なフルモール化というものを目標として定めていきたいと思っています。

いずれにしましても、本日いらっしゃる皆さん、そして関係者の皆さんと一緒に議論を積み上げていくことが大事だと思っていますので、御堂筋の将来ビジョンを取りまとめるにあたり、皆さんからの忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◆ ミナミまち育てネットワーク 和田氏

全体の80周年の感想と議案がございましたところでのご意見、ご提案を含めまして、一言述べさせていただきたいと思います。

一昨年12月末、行政のお声がけでスタートしましたこの80周年記念事業ですが、本当にこの公民連携という意味では、大きな意味があったと感じております。特に、ミナミのほうは、JUNGLE namba、駅前広場から今回の御堂筋チャレンジのモデル区間、そして千日前から道頓堀の道路の再編など、本当に新しいまちの変化、まちづくりが行われております。我々民間としても、うれしいことですし、しっかりとしていかななくてはいけないと感じております。

公民連携ということでこの1年を振り返りますと、少し申し上げにくいところから先に言いますと、まず協賛金の配分の問題ということが1点ありました。それからこれも大変失礼ですが、走りながらされていると感じましたシンポジウムやワークショップの開催。それから、重複する部局の業務といった課題が少し気になりますが、ただ担当部局の皆さんは本当に大変であったろうと感じています。

ただ一方、おこがましい話ですが、我々もできるだけの協力をさせていただきたいと思っていて、それをしっかりさせていただいたところは自画自賛しているところです。そういった意味で公民連携というのは、一つ大きな進歩があったと思っています。

さらに良かった点をあげますと、御堂筋チャレンジの社会実験の時は、特に建設局の皆さんと一緒に警察に行ってくださいましたり、実験中は毎日当番を組みまして、携帯電話を交代で持って帰ったり、椅子、テーブルの撤去、設置などの作業も一緒に汗をかいたということも公民連携のいい一つの共働作業だったと思っています。また、記念事業をきっかけに、御堂筋のエリアマネジメント3団体が一緒になってお話をする機会ができただけでなく、先ほどにもありましたように、将来の御堂筋の姿を考えて、まとめたり、さらには民間を主体にシンポジウムを開催したり、それからサポーターズ倶楽部という民間発の提案ができるという動きは、日本のほかのエリアにもない、画期的な動きではなかったかと思っています。これもひとえに、きっかけをつくっていただいた行政のリーダーシップがあったからこそ成り立ったものだと思っていますので、非常にありがたいと感じています。

そこでお願いですが、先ほどの議案にもありましたが、ぜひこの動きを継続的にし

っかりと進めていきたいと思っています。そのためには、例えば、周年事業の推進委員会という形になりますと、こうしてたくさんの方にお集まりいただいて、予算もついて、しっかりと動いていくと思いますが、実際はこの7月に解散されてから、平成30年度においてもしっかりと公民でお話ができるプラットフォーム、会議体をつくっていただきたい。会議体をしっかりと進めていくためには、やはり人とお金をつけていただくことが非常に重要だと思っています。これからサポーターズ倶楽部を立ち上げていく、それから駅前広場や御堂筋の運営管理についても民間でしていこうという中では、これも失礼ですが、行政が施設整備、制度を考えて、「あとは民間で」と非常に民間に期待していただいていると思いますが、真の公民連携を実現するためには、公民のビジョンを両方で組みまして、現制度の範囲ではなく、行政も一緒になって利活用や運営方法を考えていただきたいと思っています。特にスタートアップのこの時期については、繰り返しますが人もお金もつぎ込む、もしくはその体制をぜひ整えていただきたいと思っています。よく「民間が先にすれば行政もついてくる、民間は行政がしてくれない」と、お互いに言っているのは、良いまちはつくれないと思います。なんとか両方で工夫して、第三の答えを見つける、新しい仕組みをつくっていった日本モデルケース、もしかすると世界的にも珍しいモデルケースをつくるのが大阪の都市格を上げることになると考えています。

100周年の時、20年後ですから、ここにおられる次の世代の方が多いと思いますが、そのときに80周年の記念事業をしてくれたから良かった、あの時がきっかけとなって100周年でこれができるという枠組みをぜひ、このメンバーでつくるということが非常に大事です。これが人とお金を確保した継続できる会議体をつくっていただきたいことだと思っています。第1号議案の後のビジョンをしっかりと実践していく会議体の創設ということをお願いとご提案を申し上げます。

◆ **事務局**

先ほどご説明しましたようなプラットフォームや継続できる仕組みを現在検討しているところがございます。今後の組織については、道路の視点だけではなくて、まちづくりの視点が必要になってきますので、沿道の方をはじめ、エリアマネジメント団体、様々なNPO団体の方々など、できるだけ多くの関係者の意見をお聞きできるような形が重要かと考えております。少しお時間をいただくこととなりますが、ご提案いただきました点を調整させていただきたいと思いますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

◆ 御堂筋・長堀 21世紀の会 成松氏

本日、将来ビジョンを見せていただきまして、非常にワクワクしております。すばらしい形でまとめていただいたと、関係の方々には感謝と尊敬にたえません。本当にありがとうございました。

道の改造計画、世界の大成功例としてシャンゼリゼがあると思います。御堂筋の特集をテレビでした時に、シャンゼリゼを所轄するパリ17区の区長のところにインタビューにテレビ局が行ってくれました。その中で区長の発言として、「かつてのパリ市は凱旋門とエッフェル塔で稼いでいた。この入場料と若干のお土産物等で稼いでいた。それをシャンゼリゼという点から線に広げたことによって、インバウンドが4倍ぐらいにふえた」「年間で1,500万人から2,000万人を切っていたのが、今では6,000万人近い人たちがパリ市に来ている」グロス全体では8,000万人ぐらいが来ているそうですが、それぐらいの人が来るようになって、経済効果たるや今までの数十倍になってきたということです。シャンゼリゼという通りをつくったことで、パリ市が世界に発信され、そして経済効果が生まれたと聞いております。

この御堂筋というのは、大阪にとって大阪を変える大きな原動力になりうると思っています。それは私が思っているだけではなく、招聘してお越しいただいたスーパーブランドの社長、ルイヴィトンモーヘルシーのエマニュエル・プラット氏、あるいはシャネルの社長が、「こんなにすばらしい通りは、世界にここしかない。したがって、当時我々の会社は世界で一番大きいショップを出した」とを言われていました。非常にプライドの高いフランスの方が、御堂筋に対しては評価をいただいている。イコールこれをうまく使えば、大阪を世界に発信できるということだと思います。そうしたことを踏まえまして、この際、大阪の活性化の実現のために、今回まとまりました案をぜひとも実現すべきであると、提案だけで終わらないようにと強く思っています。これが御堂筋100周年を目標にして、全て実現されていくという方向へ持っていくことだと思います。

そうした基本的な趣旨の中で、2つの修正動議と1つの提案をさせていただきます。

修正動議その1は、1号議案の中の最後のほうですが、「記念事業が終了する平成30年度7月31日とする」となっているところです。今和田さんからもご提案があった内容をこの際、ここに文章化しておこうという趣旨でございますが、「7月31日とし」、その後「大阪市将来ビジョンに提示されている人間中心の御堂筋の実現まで、官民を上げた（仮称）御堂筋協議会というようなものを設置し、本会議の討議事項の実現を目指す」という項目を第1号議案の中に入れていただきたいという修正動議が1点

です。

2つ目の2号議案に対する修正動議を申し上げます。9行目、下から2行目になりますが、「その後、事務局で速やかに最終案を取りまとめ、修正版を各委員に確認していただいた上で、案をとり、御堂筋将来ビジョンを確定する。」となっていますが、このところを「その後、事務局で速やかに最終案を取りまとめ」の後に、「実行委員会で審議し、推進委員会で承認後、御堂筋将来ビジョンを確定する。」ということで、最終確定する前に、7月末まであるわけですから、もう一度実行委員会を開催し、案を詰めるということと、最終的にはこの推進委員会で承認していただくということで、将来に向けての推進ということにさせていただけると、非常にはっきりすると思います。

最後に、この会でもたびたび話題に上りましたが、ロードマップの件です。ロードマップの目標年月日、過去のものに関してはきちっと書いていただいておりますが、将来的な長期ビジョンに関しては、例えば15ページの将来ビジョンはすばらしい将来ビジョンをあげていただいておりますが、ここに関しては目標年月というものは特に入っておりません。御堂筋完成100周年をターゲットイヤーとして書いていますが、その辺も含めて、もう少し詳細なロードマップをつくっていただいて、それに目標の年月をつけていただくことで、これが実現に向けて動き出すということになります。以上のような点を提案させていただきたいと思います。

◆ **事務局**

ただいまご提案いただきました点につきましては、後ほどご審議いただければと思います。実行委員会等の開催もこれから調整させていただきますが、事務局としまして、和田委員からありましたように、公民の連携が非常に大事であって、その中身をどのように進めていくという観点からの仕組みづくりを提案させていただきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

◆ **近畿地方整備局 池田局長**

まずは皆様方に、80周年記念事業をたくさん実施していただきましてまことにありがとうございます。また、本日はこの将来ビジョンをまとめていただきまして、私からもお礼を申し上げたいと思います。

その中で今話題に出ていました15ページのロードマップのところですが、まずは側道閉鎖を2025年までに実施することと、その後完成100周年に向けてフルモール化としていくという内容についても全く賛同いたします。この2025年の側道閉鎖を3キロ全

てやるということは、これから皆さんの力や市民全体の力をおかりして合意形成を図っていかないとなかなか実現が難しいと思いますので、ぜひここを正念場として、これを実現できるように力を合わせていく必要があると思います。先週の新聞の1面にはカラーで出ていましたし、市長からもいろんなところで発信してくださり、大分浸透はしていると思いますけれども、まずこういうことを進めるんだということを、くどいぐらい発信していかないといけない。御堂筋の南側一方通行というのは大阪の文化になっていますから、また常識になっていますから、こういうふうに変えるんだということを相当言っていないと伝わらないと思います。そこは、皆さんの力をかりてやっていかないといけないと思います。そういう意味においても、これから市民全体の合意形成を図っていく上で、先ほどからご提案のあった継続的な体制というのは絶対不可欠だと思いますので、ぜひお考えをいただけないかと思います。

それから、もう一つは再編の内容について、16ページから17ページには、いわゆる側道閉鎖時のイメージが載っていると思います。自転車の問題ですけれども、日本の場合はここ40～50年、自転車と歩行者は歩道で同居していたような歴史が長かったものですから、何か同居できるのではないかという感覚があるのですが、皆さんも歩道で自転車と歩行者が輻輳して危ないということは日常的に感じていると思いますので、基本的には自転車と歩行者が同じ空間内で共存するというのは難しいと思います。けれど、こういう広い歩道になった場合に、自転車にどのように走ってもらうかということは工夫がいると思いますので、安易に自転車と歩行者は共存できると思わず、できるだけ車と自転車が一緒だという基本的な考え方のもとで具体的な案を考えていただくように、ぜひお願いしたいと思います。

◆ **事務局**

本市としてもこれまでも自転車レーンや車道でのカラー化など、いろいろな取組みを進めていますので、国の基準等も参考にしながら、反映していきたいと思います。どうもありがとうございます。

先ほど沿道の合意形成のお話もさせていただきました。地元協議会も立ち上げて始めています。先日メルボルンとお話しした時も、20年前にメルボルン市のメインストリートで空間再編した際も、大分苦労されたということを伺っております。当然沿道の方、周辺の住民の方など、様々なステークホルダーがいますので、同じようなことで大変調整に時間をかけられたと聞いています。まずは沿道の機運を醸成しながら進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◆ **御堂筋まちづくりネットワーク 高梨氏**

御堂筋完成80周年記念事業の推進につきましては、本日ご説明がございました中で、私どものまちづくり団体としましても、行政のリーダーシップの中で非常に活発に動けたのではないかと考えております。

特に我々、御堂筋まちづくりネットワークでは、連携団体として、大阪市さんと一体となって、パークレットなどの活動をしてきましたが、引き続き我々も精力的に対応していきたいと考えています。

今後の話でございますが、第1号議案の中の「今後の展開」でも書いていただいていますとおり、体制の継続ということで、ここに書いていただいています内容を進めていこうということで、我々まちづくり団体としても協力しながら、公民連携の対話の場を持って、将来ビジョンの推進に当たっていくということで考えていますので、よろしく願いいたします。

◆ **大阪ガスエネルギー・文化研究所 栗本氏**

御堂筋を車封鎖ということを大きく提言されるということで、非常にうれしく拝見をしています。

その中で、3点ほどお願いと気づいた点がございますので申し上げたいと思います。

まず1つ目ですが、先ほどからお話が出ております体制の継続化、仕組みづくりというところですが、この冊子を見ると、大阪市と国土交通省近畿地方整備局、そしてエリマネ団体や民間と一緒に連携していくということですが、もう少し離れた視点でどのように役割分担をして推進していくかということが、少し見えないような資料になっていますので、この会議が解散する前に、ロードマップの中に役割分担も明確にさせていただけると、私どもも協力しやすいので、お願いをいたします。

2つ目ですが、この表紙に「みちからまちを変えていく」と、うたっていますが、ご提案を拝見していると、やはり御堂筋の「みち」の絵であったり、内容であったりということで、もちろんそこからスタートはしていくのですが、どうしても「みち」、御堂筋の筋というところに非常に重きを置かれていまして、御堂筋の通りとのかかわりがあまり出てきていないという印象でした。この通りというのは、やはり東西軸のことで、昔から大阪の歴史的な文化軸を担っていますので、やはり東西軸にも踏み出していくような試み、そのような視点もとりにいれて、最終のものをつくっていただければいいのではないかと感じました。

このみちからまちへというところでは、社会実験を重ねていくということが非常にい

と思います。京都の河原町は、社会実験を十分にしないで車をある程度締め出したということで、住民の方から非常に苦情が出ていると聞いておりまして、実際にバスが動かないと思います。あそこの道に入ったら車はもう動かない、というような実状を聞いておりまして、そういうことも鑑みながら社会実験を繰り返していくということは、周辺の市民もその認識を高めていくという非常にいい機会ではないかと思いません。その中で、市民の認識も向上させるといった意味では、人に優しいまち、住民に、ビジターに、インバウンドの方に優しいまちという、人も住民ももう一つ成長していくという視点がもう少し盛り込めると、よりよいビジョンになるというような気がいたしますので、社会実験を含めて、そのようなことも盛り込んでいただければありがたいと思います。

そして、3つ目ですが、それに加えて市民がつくる御堂筋であり、御堂筋中心のまちづくりというところでは、大阪のまちというのは、やはり市民の基金や寄附やいろいろな思いなど、実際にお金であったり、汗であったりというものを積み重ねてできてきた、特に大阪城や中央公会堂もそうですが、そのような歴史が多々あるまちでございますので、御堂筋も市民一人一人がつくってきたんだというような門戸を開くという仕組みづくりがあればいいと思います。それが基金であったり、何か参加型で知恵を出したり、汗を流したり、市民も参加していくというような体制だと思います。今、サポーターズクラブをはじめ、全体的な体制の中で、そのようなことも盛り込んでいただきたいと思います。オール大阪でこの御堂筋周辺のまちをつくっていくんだ、100周年の時はお年寄りから若い者まで、御堂筋に何か携わってきたというような足跡をどこかの街角に残せるというか、そこまでの仕組みができれば非常に望ましいと思います。

◆ **事務局**

最初にご意見いただきましたロードマップの詳細化については、今後の仕組みづく中で検討させていただきます。

それから、通りの関係につきましては、例えば現在のこのビジョンの中では9ページに、周辺エリアとの歩行者空間ネットワークの形成といったところ、また道修町通のパスも載せさせていただいていますが、文言的に少し読み取りにくいところもあるかもしれません。今後この将来ビジョンを市民へ広く周知していく中で、配慮させていただきたいと思います。

それから、市民の方に継続的に意見を聴取したり、巻き込んでいいものに仕上げてい

くという意味では、今年度も80周年記念事業ではワークショップを実施しています。資料1の参考資料にも載せていますが、いろいろなワークショップの開催を通して、有識者だけではなくて市民の方のご意見をいただけるような場づくりもしております。次のプラットフォームの中でもそのような議論を踏まえて、仕組みを考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◆ **アドバイザー 橋爪氏**

課題解決型のまちづくりではなくて、将来あるべき姿を置いて、そのビジョンに向けて、何ができるのかという構成になっているというのは、私はすばらしいスタンスだと思っております。

御堂筋ですが、北御堂、本願寺津村別院がこの地に来たのが1597年、南御堂、真宗大谷派難波別院がここに来られたのが1598年、400年を超えて、この界隈は御堂を中心に発展をしてきたわけです。今回は御堂筋を拡幅して80年になりますが、私はそれ以上に400年の先人の鋭意、暮らしを受け継いで、次の世代に我々が渡すというような考え方で、この80周年、100周年を迎えるべきだと思っております。とりわけ、モータリゼーション、自動車中心の通りになったのは、日本の場合は戦後復興期、高度経済成長期から車中心の社会に我々は切りかえていった。1950年代、1960年代からと考えましても、車中心になった時代はたかだか50年。400年のうちの50年だけが車社会。これを今後20年かけて、もう一度違う道づくりに戻していくという覚悟を持ちつつ、決意表明、企画書を策定していただいたということで、ひとえに心強いと思っております。

船場のまちづくりにかかわらせていただいて20年以上たちますが、最近はずいぶん変化を見ております。人口は2000年で3,873人の夜間人口しかなかったものが、2015年には1万2,000人を超え、今後もますますふえ、ドラスティックにまちのほうが変わっています。私も都市計画の副会長をさせていただいており、御堂筋の制度を変えてきましたが、その結果、ホテルが続々とできており、2015年には船場地区に18軒のホテルしかなかったのですが、現在37軒、これもまたどんどんふえていっています。船場地区にタワーマンションが初めてできたのは2003年、最初の1棟目ができてから15年で現在17棟。毎年1棟ぐらいのペースでタワーマンションがふえ、人口が戻ってきているという状況です。逆に銀行は、1997年に123銀行がありましたが、現在59。この間、まちのあり方が業務中心地区から、住まいとやホテル、あとにぎわいとオフィスの混合地帯になってきています。今回のレポートでは、「みちからまちを変えていく」というふうに掲げていますが、これは同時に「まちからみちを変えていく」ということ

でもあります。今はまちの変化のほうがドラスティックなので、道路づくりはそのまちづくりに追いついていかなければいけないということを特に申し上げたい。船場地区、要は御堂筋という通りだけではなくて、そこから堺筋の間であるとか、あるいは西のほうの四つ橋の間であるとか、エリア全体のまちをどう変えていくのかということ、将来ビジョンを契機に展開をしていただければと思います。先ほど局長がおっしゃったように御堂筋の道路を封鎖した場合は、ほかの道に負荷が当然かかっていくということも含めて、ちょっと引いた図で、広域で将来のあり方を考えていくということが次のステージでは必要だと思っています。

◆ **アドバイザー 嘉名氏**

社会実験と将来ビジョンの策定とそれから公民連携というものを一体的にやるという記念事業というのは、恐らくかなり珍しいことだと思います。ただその分、すごく将来につながる、素晴らしい記念事業であったのではないかと考えています。そこにかかわらせていただいたことにまず感謝申し上げたいと思います。

それから、私が個人的にこの記念事業を通じてワークショップにたくさん参加させていただいたり、それからワークショップだけではなくて、実はこの御堂筋完成80周年に関連して地域のまちづくり団体、いろんな団体がやはりご関心を示していただいて、勉強するから来てくれないかと言ってくれていただく機会もたくさんいただいて、本当に御堂筋に対する皆さんの関心の豊かさを改めて実感しました。また、そのプロセスで私自身も御堂筋のことを改めて勉強させていただいたと思っています。

先ほどらい、皆さんからお話がでていきますように、2037年にフルモール化というのが出てきたということで、世界中の4キロを超えるようなメインストリートでフルモール化というのを打ち出した例というのは、恐らく例がないと思います。そういう意味ではすごく壮大な目標を打ち出したということですが、地域の方々ともお話をしていくと、やはりたくさんの課題があるのも事実です。例えば、パリのシャンゼリゼ、ニューヨークのブロードウェイの例を見ても、やはりかなりの時間をかけて地域の方々との対話をしながら問題解決に当たっているということ、それから、先ほど橋爪先生もおっしゃいましたけれども、多分これは、御堂筋だけでは解けない方程式のはずです。大阪全体のまちをどうしていくかということを考えていくという非常に重要なテーマでもあると思うので、ぜひそのあたり、大阪全体の都市計画をどうしていくかということも考えていく必要があると思っています。

大阪市区改正設計を実施した、つまり大阪の都市計画を一番最初にやったのが1919

年で、その最初の都市計画に御堂筋というのが一丁目一番地として計画に位置付けられた。そこからまた100年というのが、実は2019年ということです。そういう節目のときに、また大阪の次の100年をどうしていくのかということを考える。そのときにやはりフルモール化を実現するような新しい都市計画のあり方というものを展望するというのもいいかと思っています。地域の方々と協議をしながら、壮大な大阪の将来像を描くということを並行して進めていければと思っています。

◆ **御堂筋・長堀21世紀の会 成松氏**

先ほど修正動議という形でご提案させていただいています。先ほど申しあげました文言の件、これは今、皆さんの意見を伺っていますと、当然組織は継続すべし、何らかの形で官民協働の組織を継続すべしというようなことだと思います。資料の中には書いていますが、今日の決議事項の中にはうたわれていないので、決議事項の中にぜひうたっていただきたいと思います。その趣旨で2つ目の件もこの決議事項の本文の中にその旨を、今皆さんから出た意見をまとめたような形でぜひ文言をうたっていただきたいと思います。

◆ **事務局**

ただいまの修正動議のご提案も含めまして、一度事務局のほうで整理をさせていただきたいと思います。この委員会につきましても7月末までとしておりますので、その中で、また皆さんにご確認をいただいて、決定していきたいと思っています。

◆ **市長コメント**

最後に、まさに仕組みづくりというのは非常に重要だと思います。ロードマップの詳細化と仕組みづくりの話ですが、一番これが重要だと思うのは、御堂筋の将来ビジョン、15ページのところですが、2025年に誘致をめざしている日本万国博覧会、私は実現できると信じていますが、まずは2025年を目途にして、そのときまでに側道を全て人が集う場に変えていく。そしてその次の100周年をめざしてフルモール化ということですが、やはりこれは同時にこの大きな目標を掲げて、私もそうですけれども、御堂筋の将来像とかいろいろなシンポジウムやさまざまなところで発信して、市民の皆さんとの共有感というものを打ち出していくというのが、まず重要だと思っています。

そして、同時に、これは口だけではなくて、やらなくてはならないことですから、そ

れをやるためにどのような実行委員会というか、メンバーが必要になってくるのかという視点でぜひ見てもらいたいと思います。ここで理解が必要になってくるのは、当然、沿道や地域の皆さんの理解が必要になってきます。また、交通の影響や荷捌きの問題をどうするのかなど、非常に実務的な課題も出てくると思います。そういった課題をどうやって乗り越えられるのか。それを乗り越えることを課題として上げて、共有し、その課題を乗り越えるメンバーを集めて仕組みをつくっていきけるかということが大事だと思っています。いろいろな仕組みづくりをやり、議論を重ねていっても、どこか大きな反対が出て止まってしまうというのはいけませんから、最初から必要なところは巻き込んでいき、議論をする場というか、階段を上げていく場というものをぜひつくってもらいたいと思います。

先ほど修正の提案がありましたので、修正を入れる形になろうかと思いますが、それは一度事務局であずかるということにしても、次のステップとして、これを現実的に実行していくための組織ということが私は大事だと思っています。ぜひそれを意識した仕組みとロードマップにしていきたいと思いますので、事務局によりしくお願いしたいと思います。

大阪市でも今新たに大きな事業をやっていますけれども、事業の規模で言うと、大きな箱物をつくったり、トンネル掘ったりするような事業ではないですから、大事なのはやはり判断・決断と、そして合意形成だと思います。それを意識して、当然警察との調整も必要になってきますし、議会の議決も必要になってきますけれども、現実的にどうすれば実現できるかという視点からの仕組みづくりをぜひお願いしたい。それで、やはり年限を区切っていけないといけないと思いますので、私はやはりまずは2025年、ここで側道はキタからミナミまで完全に廃止する。ちょうど2024年にはうめきたのまちづくりの都心公園についても間違いなくやりますし、2020年には難波の駅前も広場化にするということで進めていますから、点と点が、まさに線になり、面になっていくと思います。それを2025年までに実行するという体制、そしてその課題もある程度見えてくると思いますので、そこを共有できるメンバーでの仕組みづくり、御前会議にならないようにするという実務的な仕組みづくりが大事だと思っています。そういう時期に入ってきていると思いますので、ぜひよろしくお願いします。